愛知県ハンガリー友好協会会報

２０１４年５月号

「V4＋日本」交流年事業

《 ハンガリーフェスティバル in 愛知 》

“ かわいい絵本の世界とクラリネットの調べ ”

恒例の「ハンガリーフェスティバル in 愛知」、今回はとてもビッグなプログラムになりました。

6 月 8 日(日)13：30～16：30、名古屋国際センターホールで“ かわいい絵本の世界とクラリネットの調べ ”をお楽しみいただきます。

プログラム最初はコハーン・イシュトヴァーンさんの「クラリネットの調べ」。コハーンさんは第 11 回東京音楽コンクール木管部門第１位 及び聴衆賞を受賞され、昨年７月から日本で演奏活動を行っていらっしゃいます。演奏曲目はハンガリーの４人の作曲家の作品です。バルトークはとても有名ですが、コーカイ、ヴェイネル、ヒダシュの曲は初めてでとても楽しみです。

続いて、ハンガリーの絵本『ラチとらいおん』の作者として日本でもとても有名なマレーク・ベロニカさんのお話と作品紹介です。マレーク・ベロニカさんは来日をとても楽しみにして下さっているようです。私達もお目にかかれること、夢のようです。マレーク・ベロニカさんとは旧知の間柄でいらっしゃるハンガリー大使館文化担当官のカールマン・アンドレアさんからもハンガリーの絵本についてのご紹介をいただきます。ハンガリーワイン、サラミ、お菓子などで交流会、ハンガリー刺繍サークルの作品展、ハンガリーの子供たちの絵画展もお楽しみください。

皆様のご来場をお待ちいたしております。

13：30～14：00　**クラリネットの調べ**

曲目：バルトーク：ルーマニア民族舞曲・３つのチーク地方の民謡
　　コーカイ　：４つのハンガリー舞曲
　　ヴェイネル：ペレギ・ヴェルヴンク
　　ヒダシュ　：ファンタジー

演奏：コハーン・イシュトヴァーン
　　(クラリネット)
　　高橋ドレミ(ピアノ)

14：00～15：00　**ハンガリーの絵本『ラチとらいおん』の作者マレーク・ベロニカさんのお話と作品紹介**

講師：マレーク・ベロニカ(ハンガリーの絵本作家)

カールマン・アンドレア
(ハンガリー大使館文化担当官)

Photo:Kaunitz Miklós

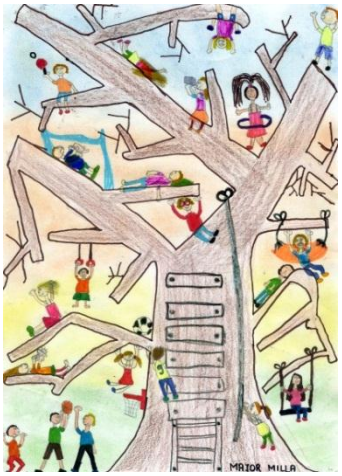
15：15～16：30　みんなで交流しましょう!
ハンガリーサラミ＋パン 、ハンガリーのお菓子、ハンガリーワインなど

展示：ハンガリー刺繍サークルの作品展
ハンガリーの子供たちの絵画展（ヴァーツィ・ミハーイ小学校・レメーニク・シャーンドル小学校）

《 ハンガリーの小学生と犬山の小中学生の絵画交換 》

2006 年から続いている絵画交換、今年はソンバトヘイのヴァーツィ・ミハーイ小学校、レメーニク・シャーンドル小学校の２校から絵が届きました。先日 4 月 19 日にハンガリー日本友好協会ソンバトヘイ支部長のシュミット・チーラさんが 43 枚の絵と犬山の子供たちへのプレゼントを持ってきてくださいました。こちらからは犬山の子供たちの絵画 30 枚とソンバトヘイの子供たちへの感謝状とプレゼントをお渡しいたしました。ソンバトヘイでは 5 月に犬山の子供たちの展示会をして下さるそうです。6 月 8 日のハンガリーフェスティバルでは犬山の子供たちに感謝状を贈呈し、ソンバトヘイの子供たちの絵画を展示いたします。

レメーニク・シャーンドル小学校マヨル・ミッラ



ヴァーツィ・ミハーイ小学校パンコー・アンナ

《 ハンガリー刺繍サークル作品展「ベーケーシュの刺繍」》

盛況のうちに幕を閉じる

早稲田みか（大阪大学教授）

2014年3月28日(金)～4月2日(水)、名古屋栄のギャラリーチカシンでハンガリー刺繍サークル作品展が開催されました。入場者数はおよそ380人にのぼりました。

愛知県ハンガリー友好協会ハンガリー刺繍サークルの作品展は、今回で二回目になります。前回のカロチャ刺繍に続いて、今回のテーマはベーケーシュ県の刺繍でした。ベーケーシュ県はハンガリーに19ある県のひとつで、ハンガリーの南東に位置します。

ハンガリー刺繍は、地方によって色やパターンがさまざまに異なります。それぞれの刺繍がどのようにして発達し、形成されてきたのかも、それぞれに独自の歴史的背景があります。

ベーケーシュの刺繍の特徴は、もともとは皮のコートに刺繍されていたパターンが布に刺繍されるようになったことです。色は、ハンガリー刺繍として広く知られているカロチャ刺繍ほどカラフルではありませんが、緑、黄色、紫などを中心としたシックな色調で、独特の雰囲気があります。

今回は、このベーケーシュの刺繍を中心に展示を行いました。さらに今回の目玉は、ハンガリー刺繍にどのようなものがあり、それがどこのものかが、一目瞭然にしてわかる刺繍地図を作成して展示したことです。ハンガリーの国境線を刺繍で描き、各地の代表的なパターンを地図上に配置しました。

この刺繍地図の前では、多くの来場者が足を止めて、刺繍だけでなく、ハンガリーの歴史や文化についていろいろと質問される方もいました。ベーケーシュだけでなく、カロチャ、マチョー、パローツ、シャールケズ、ウーリ、メゼーシェーグなどの刺繍も展示されており、ハンガリー刺繍の多様性がよくわかる展示になっていました。

多くの皆様にハンガリー刺繍の魅力を知っていただくよい機会になったのではないでしょうか。また、会員にとっては非常に貴重な体験となり、さらなる活動にむかう刺激となりました。すでに次回の作品展は何をテーマにしようかと盛りあがっています。こうして今回の展覧会は大好評のうちに幕を閉じました。

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

（作品展の写真は https://www.facebook.com/aicsimagyar をご覧ください。）

《 ハンガリーの教会を訪ねて 》

大塚睦夫（ハンガリー在住）

歳を重ね、そろそろ終活のことを考え始めたりすると、古刹を巡ってみたくなるものなのか？　それは仏教に限らず、どの宗教においても巡礼という形で、必ずしも宗教的な慣習ばかりでなく、旅の一環として流行っているというニュースも最近ではよく耳にする。

私のケースといえば、若い頃に技術者として、レポート作成上で写真撮影の必要性にかられ、俗に言う“ハマった”というのでしょう、常にカメラが手元に数機あるほどのマニアになってしまった。　ハンガリーに住み始めて、日本に劣らぬほどの古刹化した教会が数多くあることを知り、四国八十八箇所巡りに因んで遍路の真似事を思い立ち、以降７年ほど「ハンガリーの教会」を撮り続けてきた。

本当は、自分のハンガリー語の勉強も兼ね、ハンガリーの信長や秀吉、家康といった英傑史にも触れてみたかったが、如何せん、ハンガリーという国は悲しいかな、戦争というものに勝ったためしがなく、史料に乏しいようだ。

そんな事情が絡んで、写真集が自分にとってハンガリーに住んだ証として最も適していると思った次第である。

前置きが長くなってしまったが、当初目標にした八十八箇所はすでに、とうに超えて、現在、１８７箇所に至っている。　これは現在のハンガリーの全土から旧ハンガリー領土であった、スロバキア、クロアチア、トランシルヴァニアのハンガリー教会も踏破した数である。

但し、教会を外から撮っただけでは面白くないので、鍵を管理している人を探し、日本からわざわざ訪ねてきた歴史学者然として内部も撮影させて貰った貴重な写真集であると自負している。

よく聞かれることで、「どこの教会が一番好き？お薦めは？」の回答に窮するほど絞り切れないのが実情で、ここでは代表的な写真を掲載するに留め、興味のある方には、

インターネットの検索欄に、「バラトン遍路の旅」又は「ハンガリーの教会」と入力していただいて、私の記事を観て頂きたいと思います。

あなたも、ハンガリーの片田舎でハンガリーの小さなルーツを探してみませんか？

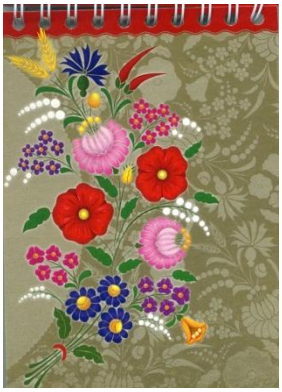
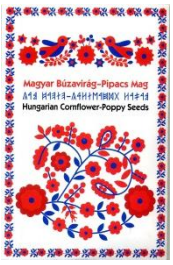
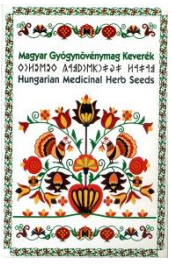
ハンガリー西部でもっとも美しい教会のひとつ
Ják St. Győrgy（ヤーク聖ジュルシ）教会

東部のウクライナ国境沿いで湖の中に立つ美しい
Csengersima（チェンゲルシマ）の教会

ハンガリーのルーツを探るに相応しいトランシルヴァニアの
Magargyerőmonostor（マジャールジェローモノシュトール）の教会と外壁面に残された日時計と彫刻。

《 ハンガリーからのお土産 》

ハンガリーからのお土産に、とてもきれいでかわいい手帳(左)をいただきました。
右の４つは花の種の袋です。これらは皆ハンガリー刺繍のデザインです。このように、最近ハンガリーでは刺繍のデザインをいろんなところに使い、文化を発信しているそうです。
種は１袋に幾種類も入っていて、このデザインのようにいろんな花が咲くことでしょう。



白にんじんやパプリカなどハンガリーの野菜に加え、ハンガリーのお花作りも楽しみましょう！！